

国語教育相談室

小学校
no.
79

光村図書

特集 ファンタジーの読み方のつぼ

わたし
ことば
風強ければ神様は靴のかかとに
棲みたもう 平野レミ

教材
研究
学びの主体性を高める
「国語びらき」

書写
紙の豆知識

悩み
解決
「季節の言葉」の活用

教材の挿絵変更についてのお知らせ
平成25年度用教科書 訂正箇所

4月30日
発売予定!



青山由紀／著
吉永直子／まんが

A5 版変型 (200×220mm)
168ページ
定価1,400円＋税
ISBN978-4-89528-683-1

も 好きに なる 典が

授業
アイデア10
まんがで見る
青山由紀の

「国語教育相談室」で好評連載していた、
青山由紀先生の「古典って楽しい！」が本になりました！
小学校古典の授業を、まんがで分かりやすくご紹介。
そのまま授業に使える資料も豊富に掲載しています。
古典の苦手な先生、若い先生、
ちよつとユニークな授業をしたい先生におすすめです。



- まんがで見る授業の様子
- 具体的な学習のねらい
- 分かりやすい指導のポイント
- そのままコピーして使える資料

[取り上げた教材]
竹取物語／昔話「桃太郎」／枕草子／
平家物語／季節の童謡・唱歌／
春の短歌・俳句／俳句を作る／
故事成語／漢詩／論語

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.153 2013(平成25)年4月17日発行 定価126円(税込)
発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp
印刷所＝協和オフセット印刷株式会社 デザイン＝mg

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。詳しくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

風強ければ 神様は靴のかか す に 棲みたもう

私は父の事が大大好きでした。父はハーフなので鼻が高くてカッコいいし、ウイットがあつて、たくさん本を読んで、たくさん本を書いて、翻訳をして、なにより、私の事を自由に育ててくれた自慢の父でした。昔から、父は私に「本はたくさん読めよ」と言っていたのですが、この年になつても、その言いつけだけは守る事が出来ないでいます。私は本を読むと、すぐに眠くなってしまうからです。

高校の時、まぐれで進学校に合格して、一時は東大を目指して勉強をしていた事もありました。予習も復習も大嫌いで、その日は、宿題もしないまま英語の授業に出ました。ところが指されてしまい、読んでから訳さなければなりません。仕方なくアンチョコを見て

訳し終わった時に、「平野君、訳がページ違つてるよ」って。これがきっかけで、「ああ、もう学校は大嫌い」と思つて、次の授業から家に帰つてしましました。その日から学校には行かず、母に作ってもらつたお弁当を持つて登校するふりをして、山手線をグルグル。いつまでもそんな事しているわけにもいかず、一週間ほど経つた頃、父に打ち明ける事に。辞めたい理由を沢山考えて、事前にどういふ返答になるのか自分の中でシミュレーション。父の前に正座をして「お父さん、学校辞めたくなつちやうた」って言つた途端、父は私を見て理由も聞かずに、一言「あー辞める辞めろ。レミにはもつと自由な学校があるぞ」って言つてくれたんです。その後の人生はバラ色でした。

結婚する時に父が一枚の色紙を手渡してくれたのが「風強ければ神様は靴のかか
す
に
棲みたもう」という父の詩でした。詩の意味を父に聞いても「いいからいいから」と言うだけだったので、深く考える事もなく時は過ぎてしまいました。父が他界し、あらためて父の思いやりを感じた時に、ふつと、詩の意味が私なりに解釈できたのです。強い風というのは、嫌なことや人生の中の荒波で、そんな風で私がふらつきそうになつた時に支えてくれる神様が靴のかか
す
に
棲んでいるから、何も心配しないでもいいんだよって言つてくれる気がしています。



東京生まれ。主婦として家庭料理を作り続けた経験を生かし、「料理愛好家」として活躍。「シェフ料理」ではなく、「シェフ料理」をモットーに、テレビ、雑誌などを通じて数々のアイデア料理を発信。著書に『平野レミのつぶやきごはん』（宝島社）、『平野レミのあかちゃんといっしょごはん かんたん取り分け離乳食』（金の星社）など多数。公式サイトに「レミレミ通信」（<http://www.remmy.jp>）がある。

CONTENTS

わたしとことば 風強ければ神様は靴のかか
す
に
棲みたもう ————— 平野レミ

特集 02 ファンタジーの読み方のつぼ

対談 ファンタジーはおもしろい ————— 岡田 淳 × 上谷順三郎

青山先生と考える 読み方のつぼ ————— 青山由紀

「海をかつとばせ」（3年上）

「白いぼうし」（4年上）

その悩み、解決
します！ 4 16 「季節の言葉」の活用 ————— 松川利広・藤井 治

教材研究のススメ 6 20 学びの主体性を高める「国語びらき」 ————— 興水かおり

書写の時間を
考えよう
番外編 24 紙の豆知識 ————— 宮澤正明

26 絵本を原典とする教材の挿絵変更についてのお知らせ
平成25年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

特集

ファンタジーの 読み方のつぼ

教科書には、中学年を中心に、ファンタジーと呼ばれる文学教材がいくつか位置づけられています。しかし、ファンタジーをどのように読んでいけばよいか、指導に悩む先生方も多いと聞きます。

ファンタジーのおもしろさは、どんなところにあるのでしょうか。言葉の学習として、どんなことを学ぶ取ることができるのでしょうか。対談と実践紹介を通して糸口をつかめたらと思います。

★ファンタジーはおもしろい

対談

作家
岡田 淳

鹿児島大学教授
上谷 順三郎

多くのファンタジー作品を生み出してこられた岡田さんと、文学教育を研究テーマとされる上谷先生に、ファンタジーのおもしろさ、国語の授業の中での楽しみ方について語り合ってくださいました。

ファンタジーって、
何だろう

岡田 僕の作品は「ファンタジー」と呼ばれることが多いけど、「ファンタジー」って、よく分からない言葉だなあと思っています。僕は、龍が出てきたら「これはファンタジーだろう」と思うでしょう。では、ローベルの「お手紙」はどうか。カエルは、現実では話をしたり、手紙のやり取りをしたりはしませんよね（笑）。現実には起こらない話をファンタジーと呼ぶなら、こういう話もファンタジーなんじゃないかと、分からなくなってくるんです。

上谷 ファンタジーについて、みんながある程度、共通してもっている捉えとしては、『現実と非現実の境目にある』とか『現実と非現実とを出入りする』という構造をも



つ」ということがあると思います。動物が話したり手紙をやり取りしたりしていても、それだけではファンタジーとは呼ばないんですね。

岡田 不思議な話には、今おっしゃったような、現実と非現実とを行ったり来たりするものだけでなく、現実の世界に何か「異界のもの」が入ってくるものもありますよね。例えば「メアリー・ポピンズ」とか、僕の作品では『びりっかすの神様』とか。こういう、日常に起こる不思議を描いたものは、日常と地続きになっているからファンタジーと呼べるのかそうでないのか、僕には境界が分かりにくいんです。

上谷 ご自身では、あまり区別せずに書かれているんでしょう。

説明のしきれないものをどう読むか

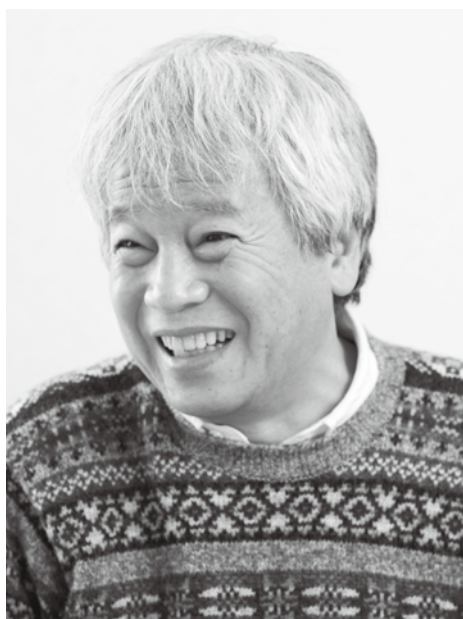
岡田 書くときには、「不思議な話を書こう」とは全く思っていないですね。普通に書いていたら、ファンタジーと呼ばれる話になっちゃったという感じです。例えば、『ムンジャクンジュは毛虫じゃない』という話があります。僕の初めての作品です。子どもたちが学校や山に行くんですが、それは

思うんです。

楽しめればいい

上谷 みんながファンタジーをおもしろいと思っているのは確かなので、「とにかくおもしろがる」でよしとするなら、それで授業を終わるのも一つの方法ですね。

岡田 僕の中では、「楽しめればいいんじゃないか」というのがありますね。「読んでいて楽しい」「この部分に心ひかれる」と感じられたら、それだけで、十分その物語は読み手の役に立っている、何かをもたらしていると思うんです。だから、分析的に、「なぜそう感じるのか」などと考えるのは、必ずしもよいことではないような気がするんですよ。例えば『ふしぎの時間割』という本の中に「ピータイルねこ」という話があります。「黒猫が、色を媒介にして、みどりという、外に関わることにものすごく消極的な子どもの世界を広げていく」という話——こう言葉にしてみましょうと、「そう思って書いたわけじゃないんだ」と言いたくなってしまふ（笑）。「こうなったらおもしろい」というのを積み重ねながら書いて、ああいう話になったんです。もちろん、後から読んで、みどりが世界を広げていっ



おかだ じゅん
岡田 淳

1947年、兵庫県生まれ。神戸大学教育学部美術科を卒業後、図工専任教師として小学校に38年間勤務。その間から斬新なファンタジーの手法で独自の世界を描く。『放課後の時間割』（日本児童文学者協会新人賞）、『学校ウサギをつかまえる』（同協会賞）、『雨やどりはすべり台の下で』（サンケイ児童出版文化賞）、『扉のむこうの物語』（赤い鳥文学賞）、『こそあどの森の物語』シリーズ（野間児童文芸賞）など、受賞作も多い。

リアルな世界でありえることです。でも、そこにムンジャクンジュという、ありえない生き物が登場するところから、この話がいわゆるファンタジーっぽくなってくる。他の作品もそういう調子で書いていて、その後、何作目かに『学校ウサギをつかまえる』を書きました。これは、不思議な物語が出てこない話なんです。「どんな話がおもしろいか」と考えたときに浮かんできたものを形にしたらそうなった。そういう意味では、二つの作品は、僕の中では変わりはないんです。僕は、自分の作品を「物語」という言葉で捉えているんです。僕の中で、「物語」とは、現実から飛び上がって現実に着地するというもの。二つの作品の違いは、その「飛び上がる高さ」の違いだけなんじゃないかという気がしていますね。

上谷 確かに、そうかもしれません。ただ、

たことはすてきだなと思う。でも、そのために書いたわけではないし、そう言ってしまうと、あのすてきさがなくなってしまう。このあたり、国語の授業というものと、ファンタジーと呼ばれる話との接点に違いがあるような気がするんですね。

上谷 なぜ「黒」と「緑」だったのかとかいうことを分析してもしかたがないところがありますね。「たまたまそういう設定なんだ」と思うことで入っていける世界ですからね。

読んだ後にやり取りすると楽しい

岡田 ある学校の先生に、「『ピータイルねこ』の黒猫が、僕の理想の教師像なんだ」って言ってもらったことがあります。

学校の授業の中で読むときには、「ファンタジーであるかないか」によって、指導のしかたを違えるということはあるかと思いますがね。つまり、例えば「白いぼうし」（四年上）に出てくる「白いちよう」のような、説明のしきれないものがあつた場合にどう読んでいくかということです。この「白いちよう」が女の子なのかどうかといったことは、書かれていないので分からないわけです。「どう考えるのが正解か」という読み方をしても、行き着くところはない。それが、「ファンタジーをどう扱ったらよいのか分からない」という学校の先生方の声に結び付いているのでしょうか。解決できないよく分からないものをファンタジーだと捉えることができれば、「この仕掛けに着目すると、なるほどと思える読み方ができる」などということが見えてくるだろうと

遊びに付き合うことで、子どもの世界を広げていく、そういう関わり方をしたいんだということなんでしょう。「そういう読み方もあるのか」と思いましたよ。読んだ後のそういうやり取りは、会話としてとても楽しいことですよね。あるいは、どんなものを何色と見るかということを話題にしてもいいかもしれません。人によって全く違つてきそうだし、教室で聞いたときに「あいつはそういうふうに通んだんだな」と思えるでしょう。そういうやり取りというのは意味があることだと思うんです。

上谷 そうですね。人には好き嫌いがあるというのを知ることにも、好きな理由が違ふんだと知ることにも意味があります。そういうことを話題にできる入り口がたくさんあるっていうのが、ファンタジーのよいところかもしれないですね。現実と照らし



かみ たに じゅん さぶ ろう
上谷 順三郎

1962年、鹿児島県生まれ。鹿児島大学教授。国語科教育の中でも特に、読むこと、教育、文学的文章の授業、読者中心の文学理論を専門とする。著書に、『読者論で国語の授業を見直す』（明治図書）、『読者論』に立つ読みの指導、『国語教育研究の現代的視点』（ともに共著、東洋館出版社）などがある。

ありえない世界を、 納得できる形で示す必要がある。

上谷



合わせて、「ああ、そんなことじゃ生きていけないよ」という話にはなりませんから（笑）。

岡田 そうそう。「僕はこうなんだ。君はそうなのか」とできるのは楽しい。

上谷 「こういうふうには思わなきゃいけない」ということがないので、それぞれの考え方や体験を共有できるよさも、ファンタジーにはあるということですね。

岡田 そう思います。

仕掛けを読み取る おもしろさ

上谷 読んで「こう考えた」というのをやり取りしながら学習していくときに、文章の分析・解釈をしてもおもしろい作品というのはあると思うんです。

岡田 そうですかねえ。

上谷 岡田さんの作品は、分析していてもおもしろく読んでいけると思っています。変な言い方ですが、ありえないと思うような世界に読み手が入っていけるためには、それが納得できる形で示されていることが必要なんです。岡田作品にはそれがあ

る。その「納得できるように書かれている」という部分が、分析できる場所だっていうふうには思うんですね。

岡田 破綻がないようにという意識はあるかもしれませんが。

上谷 ありそうにない話なのに、なぜ読み切れたのかと振り返ったときに、「この設定で、こう考える人がこう行動するのは分かる」と、自分が説得されていた理由が分かるというのは、おもしろさの一つかもしれない。とことん分析しても整合性が保たれている、絵に描いても矛盾なく再現できるなど、「分析するとおもしろい！」

不思議を描く仕掛け

岡田 『ふしぎな木の実の料理法』をはじめとした「こそあどの森の物語」シリーズは、本当にはない不思議な世界の話なので、それをどう、ありそうに作り上げるかっていうのには気を遣いますね。

例えば、今日、このビルの玄関のところにあったことですが……レンガ色の壁があつて、下はこげ茶色の石が敷かれてい

ないところに連れていく。そういうところは意識しています。

上谷 先ほどおっしゃっていた、「飛び上がる高さ」の違いによって、その意識のしかたは違ってきそうですね。

岡田 そうですね。短編であれば、わりと一足飛びに行けるんですけど、そうでなければ、丁寧に積み重ねていきます。例えば「ピータイルねこ」であれば、まずリアルなところから、みどりがいやだと思っていること、「緑色という色に関わって、なんとか外の世界とつながっている」ということをできるだけきちんと書きます。だから、黒猫が黒いタイルを飛び飛びやってきたときに、猫がしゃべることを疑問に思わずに、みどりと色の関係ができていくんです。「飛び上がる前」のリアルな現実の部分をしつかり書くことで、「飛び上がる高さ」が保証されるみたいなのところがあ

りますね。まあ、書くときにはそれほど分析的には考えてはいませんが、思い返すとそうかなというところですよ。

上谷 ご自身の作品を読み返されるときには、そういった仕掛けのことは意識されるものなんですか。

岡田 意識しないですね。中に入ってその世界を楽しむという感じですよ。もちろん「あざとい」仕掛けについては、少しは意識しますよ（笑）。例えば、『放課後の時間割』に「すると、雪がふりだした」という話があります。「すると、雪がふりだした」というキーワードが出てくる物語を作るという課題を与えられて、ネズミが作った話です。でも、冒頭で空中にはり付いたように雪が止まってしまう。「どうなるの」と思ううちに話に引きずり込まれていって、終末、キーワードの一文とともにまた雪が降り始める。自分でも「あざといな」と思

みんなが必ず思うことを積み重ねて、
ありえないところに連れていく。

岡田

る。左足をそこに踏み出すと、なんだかバナナの皮を踏んだときのような感触があった。「あつ」と思って右足を出すと、同じように感じた。こういうことが、年に一、二回はあるんだけど、自分の足元を見ると地面から一センチぐらい浮き上がっていた……って言ったら、みんな、「ええっ」って言うでしょう（笑）。

上谷 （笑）

岡田 今、「ええっ」って思ったでしょう。つまり、そういうことです。「このビルの玄関」という場所は、ここにいるみんなが知っている。それから、「バナナの皮を踏んだときの感触」も、みんなが想像できる。そういう、みんなが知っていることを積み重ねていって、「浮き上がっていた」というところにもっていくように、僕は考えているんです。分かること、みんなが必ず思うようなことを積み重ねていって、ありえ



います(笑)。こういうものは読み返しても、もう引つ掛かりはしませんよね(笑)。

「語り」の効果

上谷 仕掛けに加えて、文章で読むときに大事なのは、「語り」だと思うんです。映像や絵がない分、仕掛けが生きるかどうかは「語り」しだいなので、そこは、かなり工夫されているはずです。国語で学習する場合、それは意識したいところです。「語り」には三タイプあると思います。一つは、語り手が紙芝居を語っているような、人物の行動も気持ちも全て分かるという全知的な視点をもつタイプ。それから、脚本のト書きのように、人物の行動を客観的に眺めるというタイプ。そして、これらの中間にある、人物の一人に焦点を当てて寄り添い、その行動や気持ちを語るといふ三人称の限定的な視点というタイプ。岡田作品は、多くが三人称の形を取っていますね。

岡田 「ピータイルねこ」だと、みどりに寄り添った視点で書いているけれど、「私は」という書き方はしていませんね。神様がみどりの肩の上に乗って語っているみたいな感じなんでしょうか(笑)。

上谷 そうですね。その距離が離れすぎて

いると、「これは空想の話だな」となってしまう。適切であれば「こんなことがあるのかも」と思いながら読んでいける。その距離感は重要かもしれません。

岡田 そのあたりはわりと気を遣っているところだと思っています。実は、『選ばなかった冒険』という話では、寄り添う人物が、章ごとに男女で入れ替わっていくんです。だから、読み手は、男の子の気持ちも女の子の気持ちも分かると感じるでしょうね。書き手として、そういうたくらみはありますよ。ただ、読むときにそんなことを考えられると困ってしまう(笑)。

上谷 「飛び上がる高さ」が高いとき、その世界にうまく踏み出させてくれる「語り」が、岡田作品にはあると思っています。それは、読み手の子どものことをかなり意識していないと生まれないものです。「これなら信用してついてきてくれる」というイメージがあるんでしょうね。

岡田 自分では分析できてはいないけれど、そうなんでしょう(笑)。子どもと「かくれんぼ」をすると、本気でわくわくしながら隠れている自分がいるんですよ。それがとても楽しい。おそらく、そういう気持ちで書いているんだと思いますね。

上谷 「おもしろがる」という思いが根っ



こにあるんですね。国語では、言葉の学習のために分析的に読むことが必要とされる部分があるのは確かです。そう読んでもおもしろいものはありますしね。ただ、「そんなふうに読むとおもしろくなる」という書き手の気持ちもよく分かります。それを受け止め、「おもしろがる」ということは忘れないでいたいですね。今日はどうもありがとうございました。

岡田淳さんの本

対談で話題に上がった、岡田さんのファンタジー作品をご紹介します。



ふしぎの時間割

偕成社／定価1,000円＋税

いくつかの小学校を舞台とし、そのそれぞれの時間に起こる、本当にありそうでなさそうな出来事を、時間割のように集めた物語。1年生の女の子・みどりの前に、不思議な黒猫が現れる「ピータイルねこ」を収録。



ムンジャクンジュは毛虫じゃない

(偕成社文庫)

偕成社／定価700円＋税

たたりの言い伝えがある不思議な山、クロヤマから持ち出された花と「ムンジャクンジュ」という不思議な存在。それをきっかけに、子どもたちの日常に大騒動が持ち上がる15日間を描く。



びりっかすの神様

(偕成社文庫)

偕成社／定価700円＋税

4年生の始が転入したのは、成績順で席が決まるクラス。そこで出会ったのは「びり」になった子にだけ見える「びりっかすの神さま」。不思議な存在、「びりっかすの神さま」によって、クラスが変わっていく。



選ばなかった冒険

(偕成社文庫)

偕成社／定価700円＋税

6年生の学とあかりは、ある日、学校の階段から、ロールプレイングゲームの世界に入り込んでしまう。ゲームの世界で眠ると現実へ、現実で眠るとゲームの世界へと、二つの世界を行き来しながら進む冒険の物語。



放課後の時間割

(偕成社文庫)

偕成社／定価700円＋税

学校ネズミは、学校に住み、人間の言葉を話す。ある日、小学校の図工の先生「ぼく」の前に姿を現した学校ネズミが、学校にまつわる物語を語り始める。不思議な存在が語る、不思議な話が折り重なった物語。



ふしぎな木の実の料理法

理論社／定価1,500円＋税

「こそあどの森」シリーズ1作目。「こそあどの森」のスキッパーのもとに届いた謎の木の実「ボアボア」。その料理法をめぐり、森のみんなが知恵を絞る。不思議な森の住人が繰り広げる物語。

筑波大学附属小学校教諭 青山由紀先生の授業実践を通して、国語の授業でファンタジーを読むときのポイントについて考えてみます。



あおやま ゆき
青山由紀

東京都生まれ。筑波大学大学院修士課程修了。聖心女子学院初等科教諭を経て、現職。日本国語教育学会常任理事。「ことばと学びをひらく会」役員。著書に『古典が好きになる』（光村図書、近日発売）など。

授業でファンタジーを読むとき

●文学の一教材

ファンタジーは、「入り口と出口がある」などとてもよくわかります。でも、国語の授業で扱うときに目ざすべきは、これらを見つければ、指摘できるようにすることだけではないと思っています。ファンタジーも、文学的な文章の一つ。文学の読みの力をつけるための一教材と考え、授業を組み立てるようになっています。

●授業がしやすい

これまでの経験から私が感じているのは、「ファンタジーは、授業がしやすい」ということ。読む力の定着には、子どもたち自身の「読みたい・知りたい」という思いから生まれる課題で学習を進めるのが有効なことは、いうまでもないでしょう。ファン

タジーは、みんなが、「不思議」という土台に立ち、「誰もが不思議だと思うのはなぜか」という共通の課題をもって読んでいくことができるんです。そんなふうに、課題の共有が自然にできてしまうというのは、教師としてはありがたいことです。もちろん、「不思議」について、思ったことを話し合えるという良さもありますね。

●三年生で、まず出会わせたい

授業では、登場人物に同化して不思議の世界の中に入り込むことと、その「不思議」の内容と構造を、外から「読者」として捉えることの、両面を大切にしたいと思っています。不思議の世界に入ったり、そこから出たりしながら読んでいくということです。私の経験上、それが最もすんなりできるのが、三年生の子どもたち。登場人物になりきった読み方だけでなく、「読者」として作品を俯瞰し、価値づけるような読み方も理解できるようになってくる頃なんです。この時期に、等身大の人物が出てくるファンタジーに出会わせ、読みの力の定着を図っておくようにしたいですね。次のページより、私の実践を紹介します。（談）

「海をかつとばせ」（三年上）

はじめに

■「海をかつとばせ」

本作品は、現実の生活の中に、不思議な存在が入ってくるタイプのファンタジーといえます。不思議な男の子の正体は、「種明かし」的に物語の結末で明かされますが、物語が終わった後もその存在が続いていくのかどうかは、明示されていません。

三年生の子どもたちが、等身大の人物と自分を重ねて、入り込みやすいよさがある作品です。ただ、ワタルの変容がはつきりとは描かれていないこと、比喩表現が多く使われていることから、どう読めばいいのかとつまずく子が出てくることも予想されます。そこで、別のファンタジー作品を導入として読む時間を設定することにしました。

■導入教材「ピータイルねこ」

導入教材に位置づけることにしたのは、「ピータイルねこ」（岡田淳／偕成社『ふしぎの時間割』収録）。小学生の女の子、みどりの前に不思議な猫が現れる、猫の存在

が消えないまま結末を迎えるなどの点で、「海をかつとばせ」と共通した構造をもつ物語です。さらに、比喩表現が少なく、繰り返しや平易な表現が多いため、導入として読む際、「不思議」の内容と構造に着目しやすくなるだろうと考えました。

通読した段階で、子どもたちは、物語の中で、みどりが大きく変わったことに気づいていたため、その後は「みどりは、何によって変わったのか」を考えながら読み進めていきました。低学年の頃から繰り返し行ってきた、場面ごとにみどりの行動や気持ちなどを「くしたみどり」で整理していくという方法を取りました。

指導計画（全七時間）

- ①「ピータイルねこ」（二時間）
 - ・全文の通読後、場面ごとに整理しながら読み進める。
 - ・人物の変容を読み取る。
- ②「海をかつとばせ」（五時間）
 - ・全文の通読後、場面ごとに整理しながら読み進める。

指導のポイント

○全文の通読

- ・読み進める。
- ・「不思議」の役割を手がかりに、人物の変容を読み取る。

まずは私が全文を範読し、子どもたちに聞かせます。導入教材からのつながりがあつたため、「白いぼうしに青い服の、ちっちゃな子」が現れたあたりで、子どもたちからは「あ、また『不思議』が出てきた」「なぜ急に出てきたんだろう」という声が上がりました。その「不思議」を楽しむ雰囲気を保つよう、「分からないところがいっぱいある、不思議な話だね」などと、意識して声をかけるようにしました。

読み方のつぼ ① 雰囲気作り

分からないものがあることに抵抗を感じている子もいます。「分からない！」で思考が停止してしまうと、せっかくの

不思議な物語もつまらないものになってしまいます。まずは「不思議」を存分に楽しませるために、よく分からない、不思議なものを楽しむ雰囲気作りは重要です。「分からない」という否定的な言葉ではなく、「不思議」という言葉で、子どもたちが物語を捉えられるよう、声のかけ方や言葉の使い方を意識したいものです。

○中心人物「ワタル」で整理

導入教材と同じように、場面ごとに、中心人物ワタルの行動や様子などを整理していきます。子どもたちは、範読を聞いているときから、「ワタルが『不思議』によって、何か変わるんだろうな」と思っていた様子。場面ごとに整理しながら、「ワタルは何によって、どう変わったのか」「どんな『不思議』が出てくるのか」などについて考えていくことにしました。

本教材は、物語の筋を追うだけなら、三年生の子どもたちにとって難しいものではありません。ただ、文中には比喩表現が多く見られます。不思議な出来事について読み取るには、その比喩表現でたとえられているものを正しく理解する必要があります。

ぶん、この正体はこうなのでは」など、さまざまに「たぶん」を想像できるのは、ファンタジーのよいところです。

作品にもありますが、読者がそのように想像できるのは、そうさせる仕掛けが、作品の中に散りばめられているからです。つまり、それらの仕掛けを根拠に、その作品の「不思議」の役割について考えることができるのです。それによってまた、人物の変容、「不思議」の内容や構造が、より際立って見えてくるようになります。

おわりに

内容や構造が共通する導入教材を位置づけたこともあり、子どもたちは抵抗なく不思議の世界に入り込み、それを楽しむことができたのではないのでしょうか。さらに、ファンタジーの特性を生かすことで、身につけたい文学の読みの力を、効果的に指導することができたように思います。

学習後、家庭学習の時間を使って、「不思議な物語」（ファンタジー）を読み、読書記録をつけさせるようにしました。そし

この点は、丁寧な指導が求められます。そこで、挿絵の拡大コピーを示すことにしました。挿絵によって場面の様子が想像しやすくなり、子どもたちの比喩表現に対するハードルが低くなったように思います。特に、教科書P72・73の挿絵で、ワタルから見えている景色をしっかりと確認することで、「観客の顔がばら色」「アドバールンもまっかつか」が示す様子が捉えやすくなりました。

読み方のつぼ 2 挿絵の活用

描かれているものを文章のみから想像するのは難しい場合もあります。そのときの手がかりとなるのが挿絵です。特に、非現実的なことが描かれるファンタジーでは、挿絵を有効に使い、文章と合わせて想像を膨らませることができるようになりたいものです。

ただ、挿絵の印象が強すぎると、その情報のみから想像してしまうことも考えられます。どの挿絵に立ち止まるのか、よく考えて活用することが大切だといえます。

○人物の変容を読む

「はじめに」でも触れたように、本教材には、ワタルの変容がはっきりとは描かれていません。しかし、ワタルに働きかける人物、「波の子ども」の役割について考えることで、それが読み取りやすくなります。「不思議」の内容と構造にも理解が及ぶはず。そこで、「なぜ、『波の子ども』なのか」という問いを立てました。

子どもたちからは、「ワタルが、海に来ればいつでも応援してもらえる気持ちになれるから」「波の子どもならいつでも海にいるし、また練習に来れば、出てこなかったとしても見ていてくれる感じがするから」など、多くの考えが出されました。なかには、「海に来ると、波の子どもが出てくるのではという気持ちに支えられ、ワタルは変わるのではないか」と読者に思わせるためという、客観的な読者の見方に立った意見もありました。このように考えたことで、結果、「練習をし続ける強い気持ちになった」などと、子どもたちはワタルの変容を捉えることができたようです。

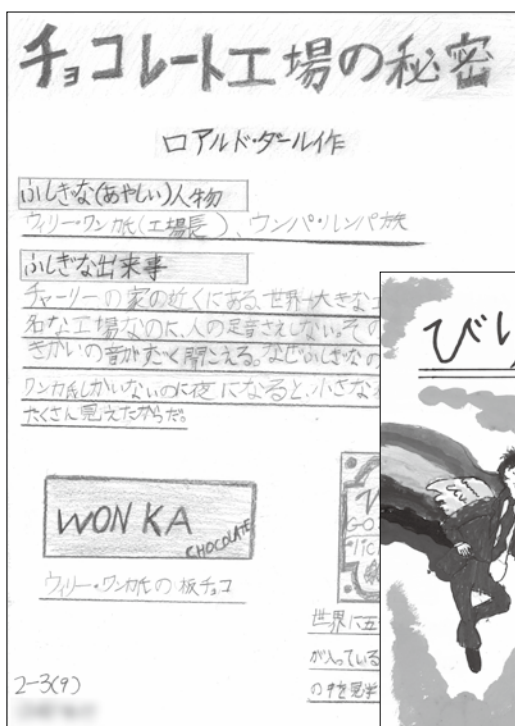
読み方のつぼ 3 「不思議」の役割

不思議な世界や出来事について、「た

て、気に入った作品を友達に紹介するポスター（左図）を作り、掲示して交流させました。導入教材からのつながりの岡田淳作品、海外の作品など、友達のポスターを見

て、感想を交わしたり、自分の読書に生かそうとしたりする姿が見られました。子どもたちは、多くのファンタジーに触れ、その世界に親しんだようでした。

▼『びりっかすの神さま』（岡田淳）を紹介したポスター。ポスターには、タイトルと作者名、「何が不思議なのか」を必ず入れることとし、その他は子どもたちの自由に任せた。



▲『チョコレート工場の秘密』（ロアルド・ダール）を紹介。作品の中の「不思議」に着目し、読み取っている。

「ゆづりあひ」(四年上)

あらまし

本作品は、巧みな伏線、色や香りの表現が効果的に用いられています。人物の変容を追うのではなく、伏線に着目して読み深めたい作品です。これまで積み重ねてきた文学の読みの学習の中でも、「海をかつとばせ」(三年上)では、その初歩を経験しています。結末の「種明かし」を受け、それ以前の「波の子ども」の行動や様子に立ち戻り、つながりを確かめる読みです。ここでは、それを生かし、より深く伏線を読む学習を位置づけたいと考えました。

さらに、本作品の「不思議」の構造を読むうえで、登場人物の人物像を捉えることが重要です。その手がかりとなる、色や香りの表現についても着目させながら、読み進めることにしました。

読み方のつぼ 4 つながりから伏線へ

ファンタジーには、伏線が巧みに用いられ、伏線に着目して読む学習を設

定しやすいものが多いように思います。「種明かし」からつながりを確認する、伏線を追つ、というように、徐々に物語の仕掛けとしての伏線を読む目を養っていききたいものです。

指導計画(全五時間)

- ①課題を設定する(一時間)
 - ・全文を読み、人物の設定を確認する。
 - ・読みの課題をもつ。
- ②課題に沿って場面ごとに読む(三時間)
 - ・仕掛けと思える言葉や表現について発表・交流しながら読む。
- ③学習を振り返り、まとめる(二時間)

指導のポイント

○課題の設定

通読後、「女の子が白いちようなんじゃないかと思った人？」と問うと、全員が手

を挙げました。全員が思うことは、課題として焦点化しやすいもの。「女の子が白いちようだとは書かれていない。でも、みんながそう思うのはなぜか。きつと証拠があるはず。その証拠を探そう」と、仕掛け探しの課題を設定しました。

読み方のつぼ 5 みんなが思うのにはわけがある

文章に明示がないことを、「本当はどうなのか」と議論しても、答えは出ません。それよりも、「明示されていないのに多くの人がそう感じるのはなぜか」という思考で、その要因となる仕掛け・伏線に着目するほうが、ずっと有意義です。誰もが同様に感じるからには、それを誘う表現や構造の工夫が必ずあるはずなのです。これはまた、意欲的に読むうえでも有効です。

○課題に沿って読む

子どもたちからは、女の子とちようを関連づける証拠がいくつも挙がりました。そ

れらは、女の子の出現のタイミング、女の子の会話など、女の子の行動に関すること为主でした。

そのなかで、「夏みかんと夏みかんの間に、『不思議』がはさまっている」という気づきの声が上がりました。松井さんが夏みかに白いぼうしをかぶせる場面(教科書P12)と、結末の一文「……夏みかんのにおいがこっています。」(P16)との間に、不思議な出来事が起きているということです。子どもたちの目は、夏みかんの役割にも向き始めました。

読み方のつぼ 6 始まりと終わり

「不思議」の中で起る出来事や変容を捉えるため、その始まりと終わりを見つけるのは意味あることといえます。さらに、それがどんな始まり方・終わり方なのかを確かめることは、仕掛けを読むことに結び付いていきます。

○人物像を捉える

松井さんの人物像を正しく捉えることも、伏線の読み取り、つまりこの作品の「不思議」に大きく関わります。その人柄が、優しく誠実に描かれているからこそ、読者は

「そんな松井さんの前だから女の子が現れた」とも読めるからです。そこで、それを印象づけるものの一つ、夏みかんに関わる描写に着目させました。

ここで重要になるのが、「これは、レモンのにおいですか。」から始まる冒頭の場面。物語の筋に関係する場面ではないため、私は「この場面は、いらないのではないかと問いかけました。すると、子どもたちからは「お母さんに対する思いから、松井さんが優しい人だと分かる部分で必要だ」「松井さん像を読者に伝える大事な場面」という意見が出ました。そこで、さらに「まるで、……見事な色でした。」(P12)という詳しい描写にも目を向けさせ、松井さんの温かな人柄を捉えさせるようにしました。

○全体を見通す

作品の「不思議」をより不思議に、味わい深く感じさせているのが、結末の一文です。物語の構成、ファンタジーの仕掛けを捉えるうえで、重要な役割をもちます。最後に、この一文が必要かどうかを検討しました。意見の交流を通し、子どもたちはこの一文には「ありえないような不思議な出来事が起きた後に、現実存在していた夏みかんの香りが残っていることで、『やっぱり本当にあったことなのかも』と思わせろ」意味があるのだと結論づけました。

おわりに

伏線、人物像、色や香りの表現、鍵となるものなど、着目したい多くの要素をもつ教材が、「白いぼうし」だと思います。押さえるべきことを絞って取り組みました。作品全体を俯瞰し、構成や表現の意味について考えることを通し、子どもたちの中に、「作者の意図」への意識が芽生えてきたように感じられました。



その悩み、
解決します！

4

「季節の言葉」の活用

日々、子どもたちを教える先生方が抱えるお悩みの中から一つを取り上げ、解決のためのアドバイスを掲載するコーナーです。
今回は、松川利広先生と藤井治先生にご登場いただきます。

お悩み

教科書二、六年に位置づけられている「季節の言葉」の授業のイメージがもてません。このページをどのように活用し、どのような授業をしたらよいのでしょうか。



初めに、「季節の言葉」の教材の意図について確認したいと思います。
どのようなことを大切にしたい教材なのでしょう。



奈良教育大学教職大学院教授
松川利広

！
解決
のために

1
まずは、五感を使って季節の言葉を感じ、獲得すること。
それから、折に触れて季節の言葉と関わることを大切に。

まずは体験（体感）する

季節の言葉は、移ろい巡る季節の中から生まれ、長い歳月を通して磨かれてきた、伝統的な言語文化として捉えることができます。

季節の言葉は、まずは享受することから始まります。先人が残してくれた季節の言葉を知り、その言葉を視覚や触覚や嗅覚などの五感を働かせて、体験（体感）することが大切です。全体で感じ取るにより、季節の言葉に息吹をもたらし、命を宿らせるのです。

例えば、春の季語「水ぬるむ」を体験（体感）するには、一月の寒い日に一度、学校のビオトープや池の水に触れる機会を作り、三月になって再び触れさせます。そのとき「そういえば、一月に比べて温かい」と感じ取らせることが大切です。この「そういえば、一月に比べて」という対比意識が、季節の言葉を支える骨格になります。季

節の言葉の学習は、「移ろい」がもとになりますから、年間（四季）を見通し、地域に応じた『季節の言葉』カレンダーを用意しておくといでしょう。体験（体感）を通して獲得した季節の言葉は、生涯にわたる宝物となり、言語生活を心豊かなものにします。

獲得した言葉で季節を感じる

しかし、いつも体験（体感）型の学習を進めることは、時間や場所の関係から現実的ではありません。そのため、教科書では「季節の言葉」の典型を学び、個々の言葉については、朝の会・帰りの会などで「季節の言葉を見つけた」コーナーを設けたり、自主学習として、新聞やテレビなどから季節の言葉を集めたりすることも考えられます。さらに、総合的な学習の時間や学校行事などでの表現活動（俳句、短歌、手紙、作文など）と関わりさせることにより、季節の言葉の深化・拡充を図ると

よいでしょう。

このように、季節の訪れを、先人の残した季節の言葉で感じ分け、新たに季節の言葉を創造するという営みは、言語文化の継承・創造の観点からも意義のある言語活動です。例えば「私の『フォト俳句』」「私の『季節の言葉辞典』」など、「私」を軸にした公開型ポトフォリオは、コミュニケーションを誘発し、言語主体である「私」の言葉の力を高めていくうえで有効です。

季節の言葉には、四季折々の行事に関するものもあります。季節の行事には、自然への畏敬の念や感謝の気持ち、自然との共生を願う心が底流をなしています。子どもたちは、季節の行事に関わり、季節の恵みを感じながら、社会性や感性を大きく深く育んでいきます。地域に伝わる行事を通して、地域との連携・協働をいっそう図り、子どもたちが季節の言葉をよりダイナミックに学べるカリキュラム開発や教材化を積極的に進めるとよいでしょう。

まつかわ
としひろ
松川利広

一九五二年、愛知県生まれ。奈良教育大学附属中学校校長を併任。国語科教育学、児童文学、教師教育を専門とする。奈良県子ども読書活動推進会議委員。監修書に『子どもの育ちと「こころ」』（保育出版社）などがある。光村図書小学校「国語」教科書編集委員を務める。

実際にはどのような授業が考えられるのか、
具体的な教材を挙げながらお答えいただきます。



元東京都台東区立育英小学校 校長
藤井 治

解決
のために

2 その時期の季節感を大切に、 児童が、言葉とその季節とを結び付けやすくする。

「春から夏へ」(五年)を例に

ここでは、季節を感じ取り、受け止める基本ともなる「気象・時候」という視点で編集された五年の「季節の言葉」の中から「春から夏へ」(P.28・29)を取り上げて、具体的な指導を考えてみましょう。次のような目標で指導するとします。

身近な風物や体験から季節を実感し、季節の言葉や俳句を読み味わったり表現したりして、伝統的な言語文化への理解を深め、感性を育む。

四月の中旬から下旬に、一時間で指導するという計画を生かすため、まず

次のように考えます。

●教材には「春から夏へ」と、季節の幅があります。一時間で春と初夏を丁寧に指導するのは難しいと考えられます。ですから、教科書では春を比較的、軽く扱い、初夏のほうに重点を置いています。

季節への感受性を高めるために、「児童が今、接している季節感」に合わせた扱い方を考えることはとても重要です。教科書の扱い方は、この時期、葉桜の季節から初夏にかかる関東以西の地域では、時候が合っている指導しやすいでしょう。いっぽう、今が桜の季節が、これから咲く北陸から東北以北は、むしろ春に重点を置いて指導するのが時候に合っているように考えます。

るといえます。ここでは、これら二つの地域に合う授業展開をそれぞれ考えてみることにします。

●本教材を一時間で指導する際、いきなり教科書を開いて授業を始めるのではなく、目標達成は困難です。児童には、事前に教科書に目を通し、季節の俳句を調べたり考えたりさせておきましょう。家のひと、季節や俳句について話し合っておくのもよいでしょう。

春に重点を置く学習指導

事前の予習として、「花」(桜)の俳句を調べたり、自分でも考えたりさせるようにし、それをもとにして、次の

ように本時を展開します。

①教科書の「春」に当たる部分を読む。「花」は桜を指し、それが春を代表するだけでなく日本人にとって特別な花であることを知る。「花冷え」の他に、「花」の付く言葉を見つける。辞書を使って調べてもよい。水芭の俳句を読み、写真と重ねながら、情景や心象を想像して話し合う。

②調べてきた「花」(桜)の俳句の中からいちばん好きなものについて、簡単な理由を添えて発表し合う。短歌もあってよい。授業後、教師が用意した掲示用の短冊に、俳句と作者名を書き、自分の俳句と並べて掲示するようにする。

③「花」(桜)の俳句を作る。いちばんよいと思う句を掲示用の短冊に書き、できた順に黒板に掲示する。友達達の俳句について、感想を発表したり質問したりする。花見の体験などを生かして話し合えるように。

④教科書の「夏」に当たる部分を読む。初夏の言葉や俳句について質問したり感想を発表したりする。そのなかで夏への期待感を高め、「夏は来ぬ」の歌を斉唱する。

初夏に重点を置く学習指導

事前の予習として、初夏を詠んだ俳句を調べたり自分でも考えたりさせるようにし、それをもとにして、次のように本時を展開します。

①教科書の「春」に当たる部分を読む。「花」の付く言葉や俳句についての感想、花見の体験を発表し合う。日本人と桜の深い関係を理解する。

②春から夏へと季節が移ると感じるタイミングについて発表し合う。教科書の「夏」の部分を読む。初夏を感じる言葉や、素堂、乙二の俳句についての感想、どちらが好きかを発表し合う。

③調べてきた初夏の俳句の中からいちばん好きなものを発表し合う。芭蕉や蕪村などの同じ句が重なるだろうが、それもよい。発表された句の好きなところを話し合う。授業後、一句ずつ短冊に書いて掲示する。

④初夏を表す言葉を生かして俳句を作る。最もよいと思う句を短冊に書いて黒板に掲示する。友達の俳句の好きなところを発表する。授業後、調べた俳句と並べて掲示する。

⑤「夏は来ぬ」の他に知っている初夏の歌を発表し合う(「このぼり」背くらべ「茶摘み」など)。「夏は来ぬ」を斉唱する。

授業の大まかな流れを示しました。その時期、その地域で感じられる季節を大切にすること、家庭学習の時間を活用し、児童が言葉や俳句などその季節とを結び付けられるようにすること意識し、指導に生かしてください。

藤井 治

一九三四年、長野県生まれ。東京都内の公立小学校での勤務を経て、東京都台東区立育英小学校校長のときに東京都小学校国語教育研究会会長、そして定年退職。監修書に、「どの子も書ける!」全教科で役立つ「読書力」UPの授業21「明治図書」などがある。光村図書小学校「国語」教科書編集委員。





6 学びの主体性を高める「国語びらき」

「言語活動の充実」を意識するあまりに活動そのものを目的化した授業、時間数が足りないといった理由から、文章を読んだだけで終わりにする単元、教材研究が甘く、指導に自信がもてなかった教材書かせたものの、評価が遅れて返却できない作文、国語が苦手、国語が嫌いという子どもたちの意識調査の結果……。さまざまな反省をばねに、新しい学年を迎えるこの時期に、改めて、「国語びらき」のための教材研究について考えてみたいと思います。

今回は、特に、小学校教育の出口に向かう高学年がスタートする五年を対象に、具体的な取り組みを考えてみます。

わくわく感・どきどき感 ——名前を丁寧に書く

新学期、子どもたちの胸は、期待にあふれています。とりわけ高学年になると

いうのは、幼いなりに背筋を伸ばす前向きの緊張感、成長感もてる重要なタイミングです。この「子どもの心の弾み」をつかむことが大切です。

始業式の日、子どもたちは、新しい教科書と初めて対面することになります。ここでまず「今までと違う」という感動を引き起こしてもらいたいと思います。光村図書 of 教科書は高学年から上下合本となり、一冊の厚みがぐっと増しています。「中学校へ一歩近づいたね。これから一年間、ともに勉強する大事な教科書に、しっかりと丁寧に名前を書こう」——教師のひと言は、想像以上に大きな影響をもちます。しかも、新しい一歩を踏み出す進級の日の言葉は、いつもとは違った輝きをもつはずです。

五年のみならず、どの学年でも、教科書との出会いを大切にしたいと思えます。始業式の日、忙しい一日ではあるでしょう。しかし、「教科書との出会

わせ方が、一年間の国語の授業を左右する」という気持ちで、せめて丁寧に名前を書かせたいものです。

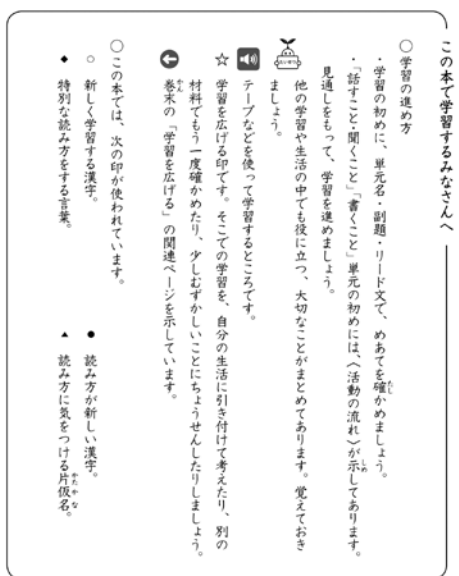
初めての国語の授業では 学びの主体者としての構えを

先日、大学の授業の中で、学生から興味深い話を聞きました。小学生の頃、担任の先生が「教科書をもらったら、まず表紙を開いてぐっと押す。次に中ほどのページを開いて同様に押す。最後に裏表紙を開いてぐっと押す。こうすると机に置いたときに安定する」と教えてくださったというのです。以来、その学生は、教科書に限らず、新しい本を必ずそうして開いているのだそうです。小学校時代の担任の影響力は多大了。ことほどさように、教科書の使い方をしっかりと身につけたクラスと、そうでないクラスとは、同じ教科書を使っているにもかかわらず、受け取

るものが大きく違ってくるはずですが、新学期の「国語びらき」は、ぜひ、教科書の使い方について再確認して、スタートしましょう。

ここからは、五年の教科書を傍らに置いて読み進めてみてください。

いよいよ表紙を開きます。表紙の裏には「この本で学習するみなさんへ」(※1)という囲みがあります。もう気づかれませんでしたね。教科書は、学びの主体者である子ども自身に向けて作られているのです。



※1：「この本で学習するみなさんへ」

「この本を使い、国語の力を身につけてください」というメッセージが、いたるところに表れています。

「学習の進め方」は、子どもの自力解決に向けた手がかりとなります。「学びの主体は君たち自身。君たちが賢くなるための手助けがたくさん用意してあるよ」という思いを子どもに実感させることが大切です。教科書という、最も身近な存在を通して、子どもたちの「学びの主体性」を育てたいものです。

目次へ進みます。「どんな勉強・活動をするのかな」「どんな物語と出会うのかな」など、子どもの気持ちを高めたいところです。既習事項である「目次の見方」を、こうした実の場で活用し、習熟させることが大切です。

特に、高学年では「学習を広げる」という資料にも着目させます。もちろん、教師も内容を目を通しておくことが必要です。例えば、「この本、読もう——本は友達」という図書リストがあります。五年では、三十五冊の本が表紙付きで紹介されています。学校図書館や地域図書

館などとの連携によって、朝読書や授業での並行読書を進める学校も増えていきます。これは、子どもたちが、自らの読書生活を計画するときの絶好の資料となることが期待できます。

続いて、「学習の見通しをもとう」のページです。高学年には、見通しをもち目的のある学習計画を立てる力が求められます。それを支えるものとして、このページがあります。国語科の三領域一事項に整理された、この学年で身につけた国語の力が示されているのです。学習前に見通しをもつ、学習の途中で目的を確認する、学習後に振り返って自己評価に使うなど、さまざまに活用してほしいものです。それには、指導する側の見通しと、活用の意識が不可欠といえます。

「リスタート」の単元 「5年生の国語学習を始めよう」

五年の教科書には、編集上の顕著な特徴があります。それが、第一単元の前に設けられた「5年生の国語学習を始めよ

う」です。いわゆる「リスタート」のための単元。子どもたちに学習の主体者としての意識をもたせ、四年生までに蓄積した「言葉の力」を再確認して、高学年としての新しい学びをスタートさせたいという願いから位置づけられたプレ単元です。

まずは、P15の「音読をするとき」(※2)を全員で確認し、「丘の上の学校で」(那須貞太郎)を音読します。窓の外に広がる雄大な景色を、教室の中から見る視点の動き、この季節ならではの自然の生命の息吹、それらを感じたままに声に表す学習活動です。細かい解説は不要でしょう。分からない言葉は、辞書を使って調べます。班で分担してもよいかもしれません。家庭学習として予習する習慣がついていればなおよいでしょう。

「いいなあ」と思ったところにサイドラインを引き、理由を書き込みます。どんな景色か、絵を描いてもよいでしょう。「いいなあ」と思ったところが伝わるように、一人一人、何度も音読します。二人一組で聞き合い、感想を交流します。

グループで群読するのも楽しいでしょう。目的は、四年までの学習を思い出し、自分の音読を振り返ることです。

次の時間は「あめ玉」(新美南吉)を楽しみます。

「ごんぎつね」と同じ作者による作品だと気づく子どもも多いかもしれません。P15「物語を読むとき」を確認し、範読を聴かせます。ゆっくり読んで三分の長さです。いつも確かめること(いつの話か・どこの話か・誰が出てくるか)を簡単にメモさせます。続いて、「次のことに気をつける」の項目に従って、個人読みに入ります。教師は机間を回りながら個人指導します。その後、脚注にある「▼」の問いを手がかりに班で交流し、自分の読みを確かめたり、音読したりします。

週五時間という時間数を 充実させるには

単に物語のおもしろさを発見することができます。その発見の実感を大事にしたいと思います。子どものさまざまな気づきを整理し、価値づけることができれば、読みも深まっていきます。

四年までに学習した、

- ・ 物語には、設定・事件・山場・結末などといった構成があること。
- ・ 登場人物の設定を読み取るためには、性格や状況を示す言葉を見つけること。
- ・ 人物の心情は、その行動や会話から想像できること。

などを確認することがこの時間のねらいです。「あめ玉」という楽しい教材を使って、これまでの学習を振り返り、自信と今後の学習への意欲をもたせたいものです。

千差万別である子どもたち一人一人の学習状況を把握し、後の授業の進度や展開を考えるために、教師にとっても貴重な時間になるはずです。指導者側にとっては、学年初めの診断的評価と位置づけることができます。

「リスタート」単元「5年生の国語学習を始めよう」は、三時間扱いの想定です。ここには、新出漢字が五字、提出されています。漢字指導に一時間を使っているのは、内容の指導が薄くなってしまうがちです。ここで、P15の左下、「P265〜272「この本で習う漢字」を、自習用のページとして、子どもたちに紹介してほしいのです。ここには、新出漢字の画数と筆順、使い方が載っています。このページを参考にして、自分で漢字学習を進める習慣をつけるよう指導します。

より詳しく、成り立ちなどを知りたければ、音訓引きか総画引きで、漢字辞典で調べるよう促します。自ら目的に応じて調べる姿勢が大切です。中学年で学んだ「辞書の引き方」も活用されなくては、身についた学力とはいえません。

また、P257には「カンジー博士の漢字学習のすすめ」(※3)があります。年間を見通した計画的な学習を進めるといっ



※2：5年P14・15

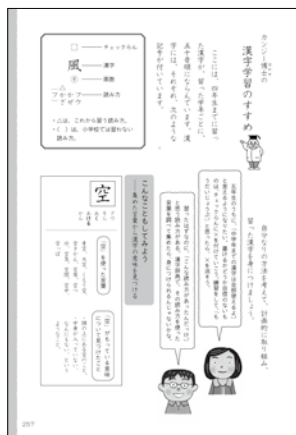
まさに、学習の主体者としての意識を、この時期にしっかり身につけさせることが、国語科にとって大切な指導となるのです。

● ● ●

学年の初めに、子どもたちがわくわくしながら教科書と出会い、主体的な学習者として見通しをもち、教科書をすみからすみまで使いこなす——そのために、教師は前もって教科書に目を通し、年間を見通した指導計画を考えておきたいものです。

新学期を迎える四月。

「国語びらき」を充実させて、わくわく感のある「私が主役」のリスタートを！



※3：「カンジー博士の漢字学習のすすめ」

紙の豆知識

山梨大学 教授

宮澤 正明

教科書四年「筆・紙・すみ・すずりができるまで」(P 24・25)では、毛筆用具の原料や作る工程を紹介しています。今回は、「書く」という行為にとつてなくてはならない「紙」を、歴史や特徴といった切り口から眺めてみたいと思います。

毎日使っているものだけど、紙のことって知らないね。



ピッチャン

紙のこと、知りたいな。



ペンちゃん

イラスト：荒井良二

1 紙の始まり

紙は、中国で発明されました。前漢の時代(紀元前一七〇年〜紀元頃)の遺跡から、麻を原料とした紙の断片が発見されています。はつきりしたところでは、西暦一〇五年、宮廷の調度や器物をつかさどる長官であった蔡倫という人が、樹皮、麻の切れ端、麻布のぼろ、魚網を用いて紙を作り、皇帝に献上したという記録が、『後漢書』に残されています。

蔡倫の頃より前の紙は、表面があまり平滑ではなく、文字を書くためには使いづらいものであったと考えられています。

蔡倫は、製紙法を改良し、文字を書くものとしての紙の製法を確立した功労者であるといわれています。

日本へは、西暦六〇一年、高句麗の僧である曇徴によって製紙法が伝えられ、大化の改新以降、戸籍の作成や經典の書写に、紙が大量に使われるようになりました。

いっぽう、ヨーロッパでは、長く羊皮紙が使われていました。羊の皮を原料とする羊皮紙は、作るのに手間がかかり、高価ではあるものの、丈夫で書きやすく、表裏に書くことができるため、優れた書写用材とされていました。

ヨーロッパ大陸に製紙技術が伝わった

ど求められませんでした。紙は、筆記具と深く関わりながら変化を上げてきたのだといえます。

筆記具に合った紙でないと、使いにくいだね。



2 和紙ってどんな紙?

日本に伝わった製紙法は、さまざまに改良された後、今日の手すき和紙の製法の基礎となる技法が、平安中期以降に広く普及しました。この技法により、薄くても軽くて長持ちするという和紙の特質が生まれたのだといえます。

原料としては、奈良時代の初めまでは麻が、やがてコウゾが主体となり、奈良時代の終わり頃にはガンピが加わり、そして江戸時代にはミツマタが用いられるようになりました。

明治初期、ヨーロッパやアメリカから、機械すきの製紙法が日本に導入されました。一般に、この製法で作られた紙は洋紙と呼ばれます。洋紙は機械によって大量生産ができるうえ、インクを使った印

紙についてもっと知りたいときは…

東京都北区にある「紙の博物館」は、紙に関する資料を幅広く収集・保存・展示する、世界有数の紙の総合博物館です。

受付で希望すれば、解説ボランティアの方が、紙の作り方や歴史について丁寧に説明してくれます。館内には、専門図書室も設けられており、紙に興味をもったなら、まずは訪れたい場所といえそうです。



公益財団法人 紙の博物館

- 入館料：大人 300円 (240円)
小中高生 100円 (80円)
※ ()は20人以上の団体料金
- 開館時間：10:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日：月曜日・祝日の翌日・年末年始
- 電話：03-3916-2320
- アクセス：JR王子駅南口から徒歩約5分
- HP：http://www.papermuseum.jp



く残っているからです。

手すき和紙は、現在、全国各地で作られています。近年、アートや文化財修復などの用途で注目を浴びている和紙は、海外からの需要も高く、日本のみならず世界の文化にとつても、なくてはならないものになりつつあります。

- 【参考文献】
- ・紙のなんでも小事典(紙の博物館編/講談社)
- ・紙の文化誌(小宮英俊/丸善)
- ・「トコトヤさしい紙の本」(小宮英俊/日刊工業新聞社)
- ・紙の科学(半田伸一監修・紙の機能研究会編著/日刊工業新聞社)

■挿絵の変更について

今回、教科書会社に対し、著作権管理会社より、絵本を原典とする作品の挿絵利用に関して、「同一性保持権」の観点から、原典の絵と同様の使用を求められました。

弊社といたしましても、改めて全体を見直し、次の作品については、平成二十五年用供給本より、挿絵の使用を原典と合わせることにいたしました。

- ・一年下巻「ずうつと、ずつと、大すきだよ」（ハンス・ウィルヘルム作・絵）
- ・二年下巻「お手紙」（アーノルド・ローベル作・絵）

先生方には、ご指導の際にご配慮いただきますようお願い申し上げます。なお、平成二十六年用供給本から変更となる作品につきましては、学習の支障のないように、別途お知らせさせていただきます。

＊「同一性保持権」は、著作権法の一つで、「著作者は、その著作物及びその題号の同一性を保持する権利を有し、その意に反してこれらの変更、切除、その他の改変を受けないものとする。」（第二〇条）というものです。

■掲載にあたっての弊社の考え方

これまで弊社は、絵本を原典として教科書に掲載する際には、作品のイメージを大切にするとともに、その世界に十分浸ることができるように配慮してまいりました。

しかし、絵本には、縦書きのものと横書きのものがあります。縦書きの場合は、右開きで、右から左へと話が進むのに対し、横書きの場合は、左開きで、左から右へと話が進みます。そして、挿絵は、話が進む方向に合わせて描かれています。

「国語」教科書は、日本語学習の特性を配慮して、基本的に縦書き表記になっています。そのため、横書きで書かれた絵本の絵を教科書にそのまま掲載しようとすると、登場人物の動きなどが、話の流れと逆行して見えてしまう場合があります。

そこで、弊社教科書では、著作権管理者と交渉のうえ、横書きで書かれた絵本の絵を使用する際、話の流れと逆行して見える絵について、逆版にして掲載してまいりました。こうすることで、描かれた登場人物などが、話が進む方向に向かって進んでいくように見えるよう配慮してまいりました。

■著作権保護の今日的な観点から

学習上の配慮という見地から、このような形で掲載していましたが、その一方で、当然、著作権が存在します。弊社といたしましては、著作権者の権利を尊重しながらも、学習者にとってよりよい教材として教科書で提示することへの理解をいただけるよう、交渉を重ねてきました。

しかしながら、書籍だけで成立していた時代とは異なり、今日の情報ネットワークの世界的な広がりや、デジタルコンテンツの一般化の中で、著作権はよりいっそう厳密に保護されるべき状況になっております。その点からも、今日、原典の同一性保持に関しては守られなければならないものと判断いたしました。

今後は、著作権者の権利を尊重しながら、学習者にとって、学習の妨げとならないように配慮するとともに、よりよい教科書をお届けることができるよう、いっそう努めてまいります。

先生方には大変ご迷惑をおかけいたしますが、なにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

国語 平成25年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

平成25年度用教科書では、平成24年度から以下の箇所を訂正しております。
校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には、十分ご注意くださいようお願い申し上げます。

学年	巻	ページ	行など	24年度	25年度
1年	下	49-51	挿絵		原典に合わせて変更。
2年	下	5-15	挿絵		原典に合わせて変更。
3年	上	15	欄外「々」注	おどり字などという。	「おどり字」などという。
		44	筆者紹介	一九二六年、東京都生まれ。動物学者。とくに、昆虫について研究している。	一九二六～二〇一一年。東京都生まれ。動物学者。とくに、昆虫について研究していた。
		66	12	気合	気合い
	下	32	たいせつ5	いちばん中心になる文	中心になる文
		117	4段目左1-3	見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。	見えぬけれどもあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ。
4年	上	129	筆者紹介	一九一六年生まれ。	一九一六～二〇〇〇年。
		88	上段7	味わいを	(削除)
		53	筆者紹介	一九三六年生まれ。	一九三六～二〇一〇年。
	下	55	17	くわしく書きます。	くわしく書きましょう。
		76	3	日本じゅう	日本中
6年		61	4-6	観客に自分のしょうかいをしたり、物音を言葉で表すというような工夫もされています。	観客に自分のしょうかいをしたり、物音を言葉で表したりするというような工夫もされています。
		134	13・14	気合	気合い
		136	5	気合	気合い

平成23年度版小学校教科書準拠

光村「国語デジタル教科書」 「書写デジタル教科書」



光村の「デジタル教科書」が進化しました!

光村「国語デジタル教科書」は、2005年に発売以来、約3,000校の小学校に導入され、大きな反響をいただいています。新しい「国語デジタル教科書」は、多くの先生方からのご意見を反映して、より使いやすく、授業をより楽しく豊かにするためのツールに進化しました。今まで以上に、授業を強力にサポートします。



「国語デジタル教科書」 学校フリーライセンス 1～6年
各学年 **68,250円** (本体価格 65,000円+税 5%)

「書写デジタル教科書」 学校フリーライセンス 1～6年
各学年 **10,500円** (本体価格 10,000円+税 5%)

※ 学校フリーライセンスとは、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。
※ 国語と書写のセットでご購入いただき、組み合わせてお使いいただけます。また、国語、書写それぞれでご購入いただくことも可能です。

「国語デジタル教科書」
中学校版は、好評発売中!

ただいま
「実践活用ガイド」を配布中!

デジタル教科書を活用した実践事例をご紹介します。
体験版と併せて無料で配布しています。

詳しくは下記ホームページまで!
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

書写 平成25年度用教科書 訂正箇所のお知らせ

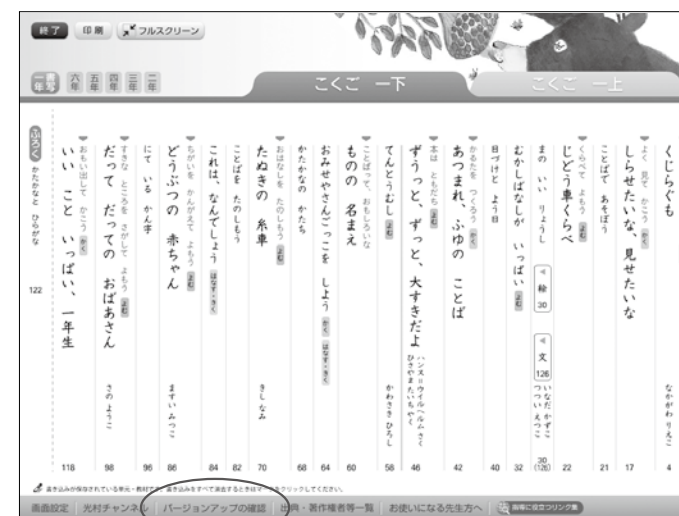
平成25年度用教科書では、平成24年度版教科書から以下の箇所を訂正しております。
校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には、十分ご留意くださいますようお願い申し上げます。

学年	ページ	行など	24年度	25年度
2年	26	下段児童画		削除
	26	左下	(アーノルド＝ローベル 作 「お手紙」より)	(アーノルド＝ローベル 作 三木 たく やく「お手紙」より)
4年	23	中央	せき 関取	せき 関所

光村「国語・書写デジタル教科書」をお使いのみなさまへ

平成25年度用教科書の訂正に伴い、「国語・書写デジタル教科書」のバージョンアップを行います。今回のバージョンアップでは、教科書の訂正箇所をデジタル教科書へ反映いたします。デジタル教科書の目次画面下に〈バージョンアップの確認〉ボタンがございます。こちらのボタンを押していただくと、バージョンアップができるようになっております。

詳細につきましてお尋ねの場合は、デジタル教材お客様窓口(03-3493-5741)までご連絡ください。



▲目次画面

このボタンを押すと、
バージョンアップができます。